

いきがい 2

平成9年7月 第1号

【 IKIGAI 2 】

発行日：平成9年7月1日 (年2回発行)

発行人：飯田義市 月村常男 発行所：〒250-01 南足柄市関本403番地2りんどう会館3F

編集人：玉野真永

編集：社団法人 南足柄市シルバー人材センター会報出版部

この指と一まれ

玉野真永

皆さんも子供の頃よくやりませんでした。?

「かくれんぼする者この指と一まれ」って...

私が子供の頃には近所の友達が集まっては小学校の校庭やお寺の境内で「かくれんぼ」とか「カンケリ」とかをして遊んだものです。遊びの前にはいつもガキ大将が今日の遊びを提案し「この指と一まれ!」と人差し指を突き出しました。するとみんなが一斉にその指めがけて群がって、後は青空が夕焼けに変わるまで遊び続けたものです。

でも、最近では悲しいかなこういった光景をあまり見る事がなくなりました。塾やお稽古事、ファミコンなどで外で友達と走り回って遊ぶということがなくなってしまったのでしょうか。

科学が進歩し物質も豊富で、「ハイテク時代」などと呼ばれる今の社会で子供達の遊びもかくれんぼ・カンケリからファミコン・パソコンへ、集団から個人へ移り変わってきたようです。

自分一人で遊べたり、物事何でも一人で出来るというのは便利なようであり、寂しいようでもありますね。

今、皆さんが参加されている「シルバー人材セ



ンター事業」は、高齢社会の救世主となる世界に類を見ない実験的システム? (こんな事を、言うとも怒られるかもしれないが) ですが、この事業を成功させるには、とても事務局や個人の力で達成されるものではなく、会員のみなさんをはじめそれを取り巻く地域社会が心をひとつにして取り組んでいく以外ないと思っております。

子供の頃、私達がやった「この指と一まれ」という行動は子供なりの一つの遊びに対しての団結・意志の統一を表わす行為であったと思われれます。元の東大総長大河内一男先生が、昭和49年に「高齢者事業団」の構想を提起し、右手の人差し指を高々と上にあげました。この指に一人でも多くの高年齢者と地域社会が止まることが、豊かで活力に満ちた社会を維持し、発展させていくことになるのではないのでしょうか。

どうです皆さん、私たちといっしょに青空が夕焼けに変わるまで遊んでみませんか。

襖の張替え 再開しました

4月16日、午前10時より、りんどう会館生きがい作業所にて、襖の張替え講習会が実に9年ぶりに開催されました。講師に、生きがい事業団時代から15年間当センターの襖張り作業をしょって立ってきたミスターシルバー・関本の島村正雄会員を迎え、緊張感のある講習会になりました。参加者は、安達美一さん・井杉三郎さん・加藤寿夫さん・高部定治さん・藤原理弘さん・和田稲吉さんの6名でした。

講習会終了後、長い間休業していた襖の張替え作業の再開が決まりましたので、ご近所で襖張りのお仕事がありましたら、是非事務局までご連絡ください。(追伸:網戸の張替えも初めましたので、是非センターまでご用命ください。)

ぎんいろ かわら版

ホームページ開設

<http://www.ny.airnet.ne.jp/msc/>

ついに南足柄市シルバー人材センターのホームページが完成しました。職員による手作りホームページなので、まだまだ、改良すべき所がありますが、とりあえずスタートいたしました。お子さん、お孫さんといっしょに覗きにきてください。市の広報「みなみあしがら」にも紹介されてますよ。

初心者向け植木の手入れ講習会

5月22日には、春日山荘にて植木の手入れ講習会が開催されました。当日は、あいにくの小雨模様の中、参加された皆さんは、午前の机上学習、昼食時のビデオ学習、午後の庭園での実技と盛りだくさんの内容を受講されました。

講師は台河原の杉山薫会員、参加者は、稲山隆之さん、内田雄三さん、大沢貞夫さん、小出茂幸さん、高部定治さん、生田目富男さん、森川広沖さん、下田兼正職員(休日)の8名でした。

大好評 刃物研ぎサービス

本年度の「福祉・健康の集い」は、5月24日にりんどう会館/共学館/文化会館周辺で開催されました。シルバー人材センターでは、

恒例の刃物研ぎサービス(無料)で参加いたしました。田中勉会員、佐藤正行職員(休日)の2名が汗をながしました。ごくろうさまでした。

通常総会

5月29日共学館において、平成9年第2回通常総会が行われました。議長に月村理事が選出され、平成8年度事業報告・収支決算・新理事 遠藤春雄さんの選任が承認されました。また、お楽しみのお席会員への総会記念品には軍手が配られました。皆さん頑張って使ってください。

第5回奉仕活動

今回で5回を数える奉仕活動は、6月11日に雨の中ではありますが、78人の会員さんが集まり、狩川左岸堤防道路遊歩道での美化清掃に汗を流しました。やはり「数は力」です。1時間半程で遊歩道と河原はゴミ一つなくなりました。参加された皆さん本当にありがとうございました。

なお、今回の奉仕活動は、東京新聞・神奈川新聞・神静民報の3紙にも取り上げられ、地域社会への貢献、センターのPRという2つの大きな目的は達成されたことと思われます。

津田滋生のラーメン紀行

この国には不思議な食べ物が二つある。一つはカレーであり、もう一つはラーメンだ。なにが変わっているのかと疑問に思うかもしれませんが。しかし考えてみてください。遠い



むかしによその国で生まれ、長い年月を経て我が国に入ってきたのに、いつのまにか一人歩きを始め、ふと気が付いたら皆に愛され、好きな食べ物ランキングの常連となり、まるで国民食のような顔をしている。こんな不思議な食べ物がほかにあるでしょうか。会報「い

きがい2」で、この不思議な食べ物「ラーメン」をこの欄で取り上げることになりました。それではなぜカレー紀行でなくラーメン紀行なのか。いろいろ理由はありますが、一番の理由は個人的にラーメンが好きだからです。

さて記念すべき第1回は一部会員の中で絶大な支持を受けている大雄山駅前通りの「きよ竹」。入店したのはちょうどお昼時。活気にあふれた店内のテーブル席とカウンター席はほぼ満席状態。やはり人気の高さがうかがえます。注文はラーメン。麺はかん水の香りのする細麺。ツコはごくオーソドックスなしょうゆ味。全体に奇を衒ったところがなく、このあたりが何か「支那そば」とっていた頃の思いが詰まっているようです。(ラーメン500円/味噌ラーメン・タンメン600円 駐車場完備)

銀謡会・カラオケ同好会会員募集

歌って楽しいですよ。シルバーで仕事に出かけない日は、家で寝ていても暑いですよ。りんどう会館で涼しく謡曲・カラオケなんていうのはどうですか？先生の話も相変わらず(下の方もあり)おもしろいですよ。(た)

日程 謡 曲：7/15・7/28

カラオケ：7/7・7/22・8/4・8/18

書籍紹介

書籍名 「看護 ベットサイドの光景」

著 者 増田れい子

出 版 岩波新書

看護婦さんと患者さんとの様々な出来事が綴られており、特に広島で原爆に遭遇された看護婦さんの看護との壮絶な闘い。幼くして病む子の痛ましさを筆舌につくせぬ想いが行間に溢れ、胸が熱くなりました。

人間誰も病む事に遭遇します。命には予備も補助もありません。健康のありがたさをつくづく感じました。一読の価値あり

印です。(は)

デジカメ部発足

南足柄市シルバー人材センター、初の部(理事さんの部会は除く)「デジカメ部」が発足しました。「デジカメ」とは「デジタルカメラ」の略で、写真を撮ったらすぐパソコンに取り込めるといったスグレモノです。どんどん、野に、山に、海に、会員就業場所にデジカメを持って出かけます。(つ)

部長：津田滋生 部員：玉野真永

かぶと虫情報募集

皆さんの近くで、かぶと虫がたくさんいる所はありませんか？私の家の近所にもいるのでしょうか、どこにいるのかわかりません。

愛する我が子、心之助(1歳)の為に、かぶと虫を見せてあげたいんですが、いい場所がありましたら教えてください。

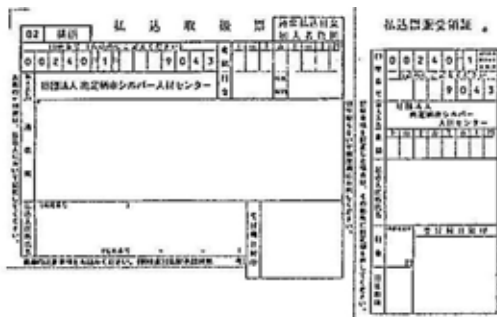
情報はシルバー人材センター 玉野まで

72-0789

会費納入に関するお知らせ

先日の通常総会の時にもお知らせいたしましたが、本年度より、シルバー年会費（1,000 円）の納入方法が全会員さんを対象に郵便局での振込に変わりました。

下記の払込取扱票を9月頃郵送いたしますので、お近くの郵便局からお振込みください。このため年会費を事務局へ現金でお持ちいただいてもお受け取りできないのでご了承ください。



今回配布の会報「いきがい2」は、昨年まで市内全戸に配布していた会報「いきがい」に変わるものです。配布部数も会員の方だけへということで大幅に減り、内容もまだまだ試行錯誤の状況です。この会報「いきがい2」の編集をお手伝いいただく会員さんを募集いたします。連絡は事務局まで。
72-0789

行事案内

7月は、安全就業強化月間です。今年の全国統一スローガンは「安全就業で地域に広がるシルバー事業」に決まりました。

8月上旬に会員状況調査(会員アンケート調査)を実施いたします。調査表が送られてきたらご協力ください。

会員親睦旅行について

今年の会員親睦旅行は、12月8日～9日に遠州・三保方面に決まりました。今回より全額個人負担となりましたので、参加費用は20,000円です。忘年会と年末の買い物をかねたコースになっていますので奮ってご参加ください。詳細は後日全員に郵送いたします。

旅は道連れ、世は情け

ツアーで旅に出たときの事です。空港に降り立つと、親しそうに笑顔で出迎えてくれた青年が添乗員さんでした。よりによってこの青年が、2日目に朝寝坊をしてしまったのです。午前8時30分出発です…。ツアー客には当日の朝、座席が知らされます。集合時間に遅れること10数分…。「すみません。」と寝起きのボサボサ頭をペコリ。ボタンはかけ忘れ、靴下も履かずに大慌てです。座席表を貼るといちもくさんに着替えに駆け出していきました。青年には、周りを見渡す余裕は、全くありませんでした。この様子を見ていた乗客たちはクスクスと笑い「添乗員、失格ね…。」と言いながらも「若いときはいくら寝

ても眠いものね」など、もし我が息子だったらどのように対処するのかしら…と思い、ハラハラしながら添乗員さんを待っていました。悪いことは続くものですね。慌てて乗客を数えて出発…。ところが乗客が1人足りなかったのです。続いた失敗で心なしか元気がありませんでしたが、この人間味あふれた添乗員さんのおかげでバスの中は、一層和やかになりました。キラキラ輝く太陽と七色に広がる海原は人々の心を大きく豊かにしたのでしょうか。乗客もこの若い添乗員さんに温かく声をかけていました。

3泊4日のこの旅は人情あり、笑いありのいつもとは違った楽しく思い出に残る旅になりました。いまも心に残っています。「めんそーれ沖繩」いきたいなあ…もう一度。(な)